

フロンティア

変化

一 一世紀に入り、さまざまな世界で変化が見られます。

変化という言葉为国語辞典で調べると、時間的、空間的推移によって状態・性質・形などが変わること、とあります。堅い表現でわかったような、わからないような意味合いですが、変化という言葉は最近常に使われているような気がいたします。

例えば、時代の流れの変化、産業構造の変化、グローバルエコノミーの変化、政治経済の変化、景況感の変化等々、さまざまな表現の中で変化という言葉が主役になってきている感じがいたします。

歴史的な見地からも変化が進化に繋がっているということであり

つまり、ヨーロッパを中世の時代から近世へと導いた変化、すなわち、一五四三年にコペルニクスが天動説から地動説を唱え宇宙観、世界

観に大転換をもたらした大

きな変化、そして、一八世紀にはイギリスでの産業革命により資本主義が成立し、経済・社会面での大変革が生じたこと、二〇世紀には、モーターゼーション、IT革命が生じ、人々の生き方を大きく変化させてきました。

そして、二一世紀においては、資本主義、社会主義が共存しながら新たな経済社会の構築を目指している状況であります。各々の分野においても、今後大

きな変化が生じてくることは、誰も否定できないことでありましょう。

さて、このように時代の流れの中における変化は、人間が生活している限りに常に生じてくることであるうし、また、そうした変化がない限り進化は止まってしまう、いわゆるガラパゴス化現象が出てくるのが必然でありましょう。

振り返って、我々企業経営に従事する人間にとって、最も大切なことは何でありましょうか？

ピーター・ドラッカーの経営書の中に、我々は変化を積極的に楽しまねばならないと論じているフレーズを思い出すわけですが、正に経営とは変化への対応力ということであり、そのことが不可能であるならば、経営者としては失格の烙印を押されることでしょう。

二一世紀に入り、社会の環境変化、経済動向の変化、世界のパワー balan

スの変化等の中で、その変化を強く認識して、適しながらベストな選択をしていくことが、これからの経営に特に求められます。そのためには、過去の豊かな経験は言うまでもありませんが、時代の変化に対して経営のあり方を常に探求して、流れとともに走っていくのでなく、一步、二歩先を読んで流れの先を走っていくことが最も求められる時代であることを、我々は肝に銘じていかねばなりません。

朝香聖一

日本精工株式会社名誉会長